

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学7							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・夜間部	2年	2期	原田 光就		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
この科目では柔道整復師が臨床現場で遭遇することの多い「前腕部の損傷」を中心に学びます。学びの大きな目的は発生機序や症状などから損傷を正しく評価し「見逃さない」ことにあります。見逃してしまうことで、その損傷が不可逆的(一生治らない)な損傷へと移行することもあり、改めて前腕部の解剖学的構造や機能などを確認し、損傷の理解を深めていきます。							
目標							
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	この科目の目標は、前腕部の骨折や軟部組織損傷を解剖学的構造と照らし合わせて考え、その発生機序や症状を学び、正しい評価ができるようになることです。合併症や治療法などについても学び、1年次に学んだ知識と臨床の場を繋げていきます。						
	到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	1. 前腕部の解剖学的構造等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 2. 橈骨骨幹部骨折の定型的骨片転位や整復・固定法等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 3. ガレージ骨折の説明・症状等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 4. 尺骨骨幹部骨折について、概説・発生機序・固定法・固定期間等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 5. モンテギア骨折についての概説・発生機序・分類・合併症・固定法・後遺症等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 6. 橈・尺両骨骨幹部骨折の概説・発生機序・定型的骨片転位・症状・合併症・整復・固定・後遺症等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 7. 前腕コンパートメント症候群についての概説・発生機序・症状・治療法等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 8. 腱交叉症候群についての概説・症状・鑑別疾患等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 9. 正中神経障害(回内筋症候群、前骨間神経麻痺)の概説・発生機序・症状・治療法等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 10. 橈骨神経麻痺、後骨間神経麻痺の概説・発生機序・症状・治療法等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 11. 尺骨神経麻痺、肘部管症候群の概説・発生機序・症状・治療法等について、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。					
履修に必要な予備知識や技能							
上肢、特に前腕部の解剖学的要素を理解・想像できていることが、この科目で学ぶ損傷を理解する為に重要になります。1年次に学んだ骨や筋肉、そして神経や血管等を改めて復習しましょう。							
教科書・参考書							
柔道整復学 理論編第6版							
受講上の注意							
不明な点は、授業内でも授業外でも構わないので担当教員に確認してください。 授業で必要なものは、必ず授業前に準備をしておいてください。なおスマートフォン等は鞆にしまってください。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	90		10				100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	前腕部の解剖と機能				P288-290	教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第2回	橈骨骨幹部骨折とガレージGaleazzi骨折(逆モンテギア骨折)				P290-293	教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第3回	尺骨骨幹部骨折とモンテギアMonteggia骨折				P294-296	教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第4回	橈・尺両骨骨幹部骨折				P297-299	教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第5回	これまでの確認・復習					教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第6回	前腕コンパートメント症候群と腱交叉症候群				P299-300	教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第7回	末梢神経障害① 正中・橈骨神経の解剖学的構造・特徴・障害				P301-302	教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第8回	末梢神経障害② 尺骨神経の解剖学的構造・特徴・障害				P303-304	教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第9回	これまでの確認・復習					教科書(解剖学・柔道整復学理論編)	
第10回	定期試験						
実務経験と本講義との関連について							
柔道整復師として接骨院、救急指定医療機関に勤務、また開業時の実務経験をもとに症状、治療法、固定法、後療法について話をします。							
メールアドレス							
harada-t@nihonisen.ac.jp							